

科目名称：	ポートフォリオ演習	
担当者名：	大谷 友理	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
クリエイティブ業界を目指す学生が、業界への就職活動で必須となるポートフォリオについて理解を深め、その目的や、どのように制作すれば目指す企業に興味を持って貰えるかを解説しながら実際にポートフォリオを制作して行く。また進路希望によっては就職活動に関係なく、学生時代に取り組んできた制作物のアーカイブとして個性を十分に盛り込んだ作品集を制作する。ポートフォリオを制作して行く課程を通して、テーマを元に企画を立てることやスケジューリング、デジタル・アナログ技術、文章力など総合的に社会で必要な力を習得する。		
授業の達成目標・到達目標		
1) 企業分析：受けたい企業が求める人材を理解し、それぞれの企業に合ったアプローチをする。または、作品集としての魅力で自分の個性をアピールする。 2) 自己分析：自己を分析し、どんな仕事をしたいか、どんな人生を歩みたいか、自分は何者なのか、どんな強みがあり、何が足りていないか、今後何をすべきかを理解し、ポートフォリオの内容に反映する。 3) 制作目標：自分の作品に対し自信を持つ。ポートフォリオのテーマや品質にこだわりを持ち制作する。作品が増えるたびにページを追加し、受けたい企業のジャンルに合わせ臨機応変に作品の追加可変を行う。 4) 就職活動：制作したポートフォリオを最大限に利用し、積極的に就職活動に活かす。		

美術学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、主に基礎教育科目により、基礎知識を修め幅広い教養を身につけ、多様な文化や考えに対応できる。	
DP(2)	主に専門科目により、美術に関する理解を深め豊かな表現力を身につけ、社会の一員として貢献できる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様な社会に対応できるように、自己表現を深化させながらも他者の意見を尊重し、様々な表現を受け入れる豊かな人間性をもっている。	
DP(4)	様々な課題に取り組み、応用力と創造力を身につけて、その中から自己の個性を磨き表現できる。	○

評価方法/ディプロマポリシー	視覚表現力	発信力	アイデア	探究心	合計
美術DP(1)					0
美術DP(2)					0
美術DP(3)					0
美術DP(4)	25	25	25	25	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》大谷 友理：デザイナー、アートディレクター、イラストレーター、Webデザイナー	《経験年数1》20年
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
視覚表現力	好印象を与える画像処理や適切な文字サイズなどのレイアウトに優れ、作品の魅力を最大限に生かしている。	好印象を与える画像処理や適切な文字サイズなどの最低限のレイアウトはクリアしている。	画像処理や文字サイズなどのレイアウトが統一されずバラツキの印象である。	画像処理や文字サイズなどのレイアウトが煩雑で未完成的なビジュアルである。
発信力	相手が知りたい情報、必要な説明が十分に為され、自分の魅力を最大限に引き出せている。	相手が知りたい情報、必要な説明が十分に為されている。	相手が知りたい情報、必要な説明がある程度為されている。	相手が知りたい情報、必要な説明が不足している。
アイデア	着眼点が高く、新規性があり、創意工夫できている。	着眼点が高く、創意工夫できている。	ある程度創意工夫できている。	ありきたりで十分に創意工夫できていない。
探究心	自身の強みを見出し、教員や学友などに積極的に意見を求めて制作に打ち込むことができた。	ある程度自身の強みを認識し、教員に意見を求めて制作に打ち込むことができた。	ある程度自身の強みを認識し、教員にあまり意見を求めず、あまり制作に集中できていない。	自身の強みを考えず、教員に意見を求めず、制作に集中できていない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 ポートフォリオを作る目的概要1(講義・アナログ作業) ①ポートフォリオとは? ②自己分析	シラバスと参考書に目を通しておく。A4クリアファイル(企画整理用)を用意する。	20分
第2回 ポートフォリオを作る目的概要2(講義・アナログ作業) ①ワークフロー ②テーマの作成 ③装丁、形状の検討	自己分析の内容に目を通し自己を省みておく。進みたい業界の企業を調べておく。	60分
第3回 基本フォーマット作成1(Illustrator、Photoshop演習) ①フォーマットデザイン ②画像加工	参考書のポートフォリオに目を通し、自己の方向性を模索する。	60分
第4回 基本フォーマット作成2(Illustrator、Photoshop演習) ①フォーマットデザイン ②画像加工	フォーマットデザインを各自進める。	60分
第5回 基本フォーマット作成3(Illustrator、Photoshop演習) ①フォーマットデザイン ②画像加工	フォーマットデザインを各自進める。	60分
第6回 作品のデジタル化、ページ内要素とレイアウト1 ①撮影 ②スキャニング ③レイアウト作業	過去作品(課題・自主制作・習作・アイデアスケッチ等)の収集。	120分
第7回 作品のデジタル化、ページ内要素とレイアウト2 ①撮影 ②スキャニング ③レイアウト作業	過去作品の収集、レイアウト作業。	120分
第8回 作品のデジタル化、ページ内要素とレイアウト3 ①撮影 ②スキャニング ③レイアウト作業	過去作品の収集、レイアウト作業。	120分
第9回 作品のデジタル化、ページ内要素とレイアウト4 ①撮影 ②スキャニング ③レイアウト作業	過去作品の収集、レイアウト作業。	120分
第10回 作品のデジタル化、ページ内要素とレイアウト5 ①撮影 ②スキャニング ③レイアウト作業	過去作品の収集、レイアウト作業。	180分
第11回 作品のデジタル化、ページ内要素とレイアウト6 ①撮影 ②スキャニング ③レイアウト作業	過去作品の収集、レイアウト作業。	180分
第12回 作品のデジタル化、ページ内要素とレイアウト7 ①撮影 ②スキャニング ③レイアウト作業	過去作品の収集、レイアウト作業。	180分
第13回 不足作品の追加と製本1(講義・デジタル作業) ①不足作品の追加 ②表紙制作・出力・ファイリング・製本	不足作品の制作が必要な場合は授業外で行って置く。	180分
第14回 不足作品の追加と製本2(講義・デジタル作業) ①不足作品の追加 ②表紙制作・出力・ファイリング・製本	不足作品の制作が必要な場合は授業外で行って置く。	180分
第15回 プレゼンテーション、ディスカッション	画像データなど必要な資料の作成、発表準備を行って置く。	180分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、授業で補えない作業をできる限り進めておくこととする。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。

絶対条件：メインポートフォリオ1部、ページの画像データの提出

評価配分：メインポートフォリオの良否100%

課題に対してのフィードバック

事前配布のルーブリックを元に担当教員が配点・アドバイスを行う。

教科書・参考書

デザイン・クリエイティブ業界を目指す人のためのポートフォリオ見本帳 MdM編集部・編